

問題一 次の1～5の成句の意味を後の語群の中からそれぞれ二つずつ選び、符号で答えよ。

- 1 足が早い      2 気が利く      3 口にする      4 手にかける      5 耳に付く

## 【語群】

- A 勝ちを急ぐ      B 先走る      C 機転がきく      D 食べ物が腐りやすい  
E しゃれている      F 聞き飽きる      G 話題にする      H 自分で行う  
I 商品の売れ行きが良い      J 直接世話をする      K 手癖が悪い  
L 食べる、あるいは飲む      M 耳ざとい      N 音や声がうるさく感じられる

問題二 次の「  」内の語句の、かなづかいの正しいものを選び、符号で答えよ。

- 1 震度6の「Aぢしん      Bじしん」でビルが崩壊した  
2 この調子なら「Aまづ      Bまず」大丈夫だ  
3 それは「A心づくし      B心ずくし」の贈り物だった  
4 憲法に「Aもどづく      Bもとづく」政治を行うべきだ  
5 退屈そうに「Aほおづえ      Bほおずえ」をついているのが彼女だ

問題三 次の「A」J」と「A」コ」を組み合わせ、近代短歌史に残る名歌を完成させよ。

- A 函館の青柳町あをやなぎまちこそかなしけれ  
B 父と母と何れがよきと子に問へば  
C 遠足の小学生徒有頂天うちょうてんに  
D 冬の朝まづしき宿の味噌汁の  
E 牡丹花は咲き定まりて静かなり  
F 手套てがわをぬぐ手ふと休む何やらむ  
G 牛飼うしかひが歌よむ時に世の中の  
H はたらけど働けど猶我なほが生活くらし  
I おりたちて今朝の寒さを驚きぬ  
J ゆく秋の大和の国の薬師寺の  
A、露しとしとと柿の落葉深く  
I、にほひとともにおきいでにけり  
ウ、心かすめし思出おもひでのあり  
エ、新しき歌大いにおこる  
オ、楽にならざりぢつと手を見る  
カ、花の占めたる位置のたしかさ  
キ、塔の上なる一ひらの雲  
ク、友の恋歌こひうた矢ぐるまの花  
ケ、大手ふりふり往来とほる  
コ、父と言ひて母をかへりみぬ

問題四 次の空欄に後の語群から適語を選び、符号で答えよ。

ア 花に葉に花粉ただよふ【A】かな      松本たかし

イ はなびらの垂れて静かや花【B】      高浜虚子

ウ 【C】咲いてその日の風に散りにけり      正岡子規

エ 紫の【D】となりぬ夕月夜      泉鏡花

オ 降りしきる雪をとどめず【E】咲く      渡辺水巴

## 《語群》

1 つつじ

2 芥子けし

3 こぶし

4 牡丹ぼたん

5 菖蒲しやうぶ

問題五 次の文章を読み、後の問に答えよ。

馬車の中では、田舎紳士の饒舌が、早くも人々を五年以来の知己にした。しかし、男の子は独り車体の柱を握って、その生き生きとした目で野の中を見続けた。

「お母、梨、梨」

「ああ、梨、梨」

馭者台ではむちが動き止まった。農婦は田舎紳士の帯の鎖に【ア】。

「もう幾時ですかいな。十二時は過ぎましたかいな。街へ着くと正午過ぎになりますやろな」

馭者台でらっぱが鳴らなくなった。そうして、腹掛けのまんじゅうを、今やことごとく胃の腑の中へ落とし込んでしまった馭者は、いつそう猫背を張らせて居眠りだした。その居眠りは、馬車の上から、かの目の大きい蠅が押し黙った数段の梨畑を眺め、真夏の太陽の光を受けて真っ赤にへえた赤土の断崖をアオぎ、突然に現れた激流を見下ろして、そうして、馬車が高い崖路の高低でかたかたときしみだす音を聞いてまだ続いた。蠅は車体の屋根の上から、馭者の垂れ下がった半白の頭に飛び移り、それから、ぬれた馬の背中にとまって【イ】。

馬車は崖の頂上へさしかかった。馬は前方に現れた目隠しの中の路に従ってジュウジュンに【ウ】。しかし、そのとき、彼は自分の胴と、車体の幅とを考えることができなかつた。一つの車輪が路からハズれた。突然、馬は車体に引かれて【エ】。瞬間、蠅は【オ】と、車体といっしょに崖の下へ墜落していく放埒な馬の腰が【カ】。そうして、人馬のヒメイが高く発せられると、河原の上では、押し重なつた人と馬と板片とのカタマリが、沈黙したまま動かなかつた。が、目の大きな蠅は、今や完全に休まつたその羽に力を込めて、ただ独り、悠々と青空の中を飛んで行つた。

横光利一「蠅」より

問一 右の文章には「しかし、乗客の中で、その馭者の居眠りを知っていた者は、わずかにただ蠅一匹であるらしかつた。」という文が抜けている。どこに入るべき文か。この文の直後に来る文の最初の三字を書き抜くことで示せ。

問二 空欄【ア】〜【カ】に当てはまる語を次の中から選び、符号で答えよ。

- |            |             |
|------------|-------------|
| A 曲がり始めた   | B 馭者の攻撃を避けた |
| C 目を付けた    | D 目に付いた     |
| E 飛び上がった   | F 興味深くながめた  |
| G エサにありついた | H 突き立った     |
| I 汗をなめた    |             |

問三 傍線部①「田舎」⑫「墜落」の読みを平仮名で示せ。

問四 傍線部②は「じょうぜつ」と読む語で、「多弁」という意味であるが、この語の対義語（反対語）を次の中から選び、符号で答えよ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| A 勘弁 | B 駄弁 | C 達弁 | D 暗黙 | E 寡黙 |
| F 語黙 |      |      |      |      |

問五 傍線部③の「知己」の「己」と同音で読むものを次の熟語の中から選び、符号で答えよ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| A 利己 | B 克己 | C 自己 | D 一己 | E 己等 |
| F 己惚 |      |      |      |      |

問六 傍線部④「むちが動き止まった」⑤「らっぱが鳴らなくなった」のような事態を引き起こしたものは何か。文中の三字を書き抜くことで答えよ。

問七 傍線部⑥「その居眠りは」の述語に当たる三字を書き抜け。

問八 傍線部⑦「ハ」⑧「アオ」⑩「ジュウジュン」⑪「ハズ」⑬「ヒメイ」⑭「カタマリ」のカタカナを漢字に改めよ。

問九 傍線部⑨「聞いて」の主語を書き抜け。